

ナシやブドウの収穫は終盤を迎え、露地ミカンでは極早生品種の収穫が始まります。収穫作業に追われがちな時期ですが、落葉果樹では病虫害を次年に持ち越さないため、露地ミカンでは収穫した果実の腐敗を防ぐため、適期防除を心がけましょう。

「果樹全般」

●果樹カメムシ類

本年は果樹カメムシの越冬世代が早い時期から樹園地へ飛来していたため、場所によっては既に何度か防除されている園も多いかと思います。一方、9月以降は当年世代がヒノキ球果から離脱して樹園地への飛来が懸念される時期です。本年のヒノキ球果実離脱時期の予測結果については、先月号でもお伝えした通り農業技術防除センターがホームページ上で公開しています。その他にもトラップでの誘殺状況等も掲載していますので参考にしてください。



農業技術防除センター「病虫害発生予察情報（令和8年度）」

ただし、果樹カメムシ類の果樹園への飛来時期は地域・園地ごとに異なるため、必ず園内をこまめに見回って飛来状況を確認して下さい。見回る際には、①熟期の早い品種から被害を受ける傾向があること、②着果数が多い樹に集まりやすいこと、③尾根沿いの園に飛来が多い傾向があること等に留意して下さい。園内への飛来や加害が確認された場合は、早急に薬剤を散布して下さい。

●果実吸蛾類（ヤガ類）

近年は秋季の夜温が高いため、9月以降も果実吸蛾類（ヤガ類）による被害が発生します。

詳しい対策は6月号の特集記事を参考にしてください。

「露地カンキツ」

●黒点病

近年は秋に高温乾燥になる年が多いですが、昨年のように秋に降雨が多い年は後期黒点病の被害が増えるため、今後も薬剤の散布間隔が開かないようにしてください。マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）は、収穫前日数や使用回数（4回以内）に注意し、温州ミカンでは400～600倍（収穫30日前まで）、その他中晩柑等では600倍（収穫90日前まで）で散布して下さい。なお、すでにマンゼブを含む農薬を4回使用している場合は、ナティーボフロアブル1,500倍（収穫前日まで）やストロビードライフフロアブル2,000倍（収穫14日前まで）等を散布して下さい。

●褐色腐敗病

先月号でも述べた通り、本病は雨などで跳ね上った土壌が果実に付着して感染・発病します。そのため、下垂枝は枝吊りし、地表面から離して下さい。また、台風等でマルチがはがれた場合はすぐに敷き直して下さい。発病した果実は伝染源となるため、見つけたらすぐに除去して園外で処分して下さい。

薬剤は、黒点病の防除を兼ねてマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布して下さい。本病の発生が多い園において8月下旬にマンゼブ水和剤を散布していない場合は、直ちに薬剤を散布して下さい。なお、マンゼブを含む農薬をすでに4回使用している場合や収穫直前に発病している場合は、収穫前日まで使用できるランマンフロアブル2,000倍、レーバスフロアブル2,000倍、アリエッティ水和剤400倍のいずれかを散布して下さい。なお、アリエッティ水和剤は、高温時に散布すると日焼け果の発生を助長することがあるため、早朝の涼しい時間帯に散布して下さい。

●果実腐敗（緑かび病等）

園内で発生した腐敗果は、重要な伝染源となるため早急に取り除き、園外で適切に処分して下さい。本病菌は果皮の傷口から感染するため、収穫の際は果皮に傷をつけないよう表1に挙げた点に留意して下さい。また、ハナアザミウマ類が加害した果実は、被害部から腐敗するため、取り除いて下さい。

薬剤は、収穫7～10日前にベンレート水和剤4,000倍とベルコートフロアブル2,000倍

を混用して散布します。なお、ベンレート水和剤とベルコートフロアブルは、それぞれを単用で散布すると効果が劣るため、必ず混用散布として下さい。

表 1 収穫時に注意すべき事項

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 結露や降雨で濡れた果実は、果皮が傷つきやすいため乾いてから収穫する・ 収穫かごやコンテナの中の小石や枯枝は必ず取り除く。また、収穫時に果実とともに混入しないよう注意する・ 収穫の際は必ず果梗枝を二度切りする・ 地面に落とした果実、傷のある果実は出荷用の果実とは区別して集め処分する・ コンテナに果実を入れすぎない・ 黒点病が多発生した園や樹の果実は軸腐病の発生が多いため、区分して収穫・貯蔵する |
|--|

●かいよう病

近年、発生が増加しています。①発生が多い園、②前年多発した園、③本病にかかりやすい中晩柑類や高糖系温州が植栽された園、幼木園、高接園、④隔年交互結実栽培の遊休年の園では、8月号に掲載した薬剤を散布して下さい。前回の薬剤散布後の目安として、①累積降雨量 150～200mm、②薬剤の残効期間はボルドー剤単用で 30 日、クレフノン加用銅水和剤で 20～25 日となったら再散布して下さい。なお、台風等の強風雨で本病の発病は助長されます。ただし、台風通過後の薬剤散布では防除効果が劣るため銅水和剤は襲来 7 日前～前日まで、抗生物質剤は襲来 3 日前～前日までに必ず散布して下さい。

また、ミカンハモグリガの食害痕は病原菌の侵入口となって本病を発病させます。そのため、新梢伸長期～硬化期にミカンハモグリガを対象とした薬剤を散布してください。既に食害された葉がある場合はできるだけ取り除いて下さい。

●カイガラムシ類

先月号でもお伝えしましたが、近年、夏秋期の高温乾燥によって 9 月以降にナシマルカイガラムシやアカマルカイガラムシといったマルカイガラムシ類の発生が増加し、果実被害を発生させるケースが増えています。発生は 11 月まで長期間に渡るため、園内を見回り、もし果実への寄生が確認された場合は、他の果実への寄生を防ぐためにもトランスフォームフロアブル 2,000 倍（多発生の場合は 1,000 倍）やエルサン乳剤 1,000 倍、ダントツ水溶剤 2,000 倍等を早急に散布してください。

●アザミウマ類

8月中旬以降、チャノキイロアザミウマを対象に薬剤を散布していない園では、9月上旬にベストガード水溶剤 1,000 倍、モスピラン SL 液剤 2,000 倍等を散布して下さい。ミカンサビダニと同時防除する場合は、コテツフロアブル 4,000 倍やアグリメック 2,000 倍を散布して下さい。

なお、本年のように梅雨明けが早く、その後高温・乾燥が続く年には、ハナアザミウマ類による果実被害が多発するおそれがあります。本虫は果実と果実が接している部分や果実と葉が接している部分の隙間を好んで生息・加害するので、園内を見回り、被害を確認したら早急にスピノエースフロアブル 4,000 倍やハチハチフロアブル 2,000 倍等を散布して下さい。

また、園周辺の雑草等の花はハナアザミウマ類の増殖源であるため、開花前に除草して下さい。

●ミカンハダニ、ミカンサビダニ

ミカンハダニは園内での発生状況をこまめに確認し、低密度時からの薬剤散布を心がけて下さい。なお、薬剤抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤の使用は年 1 回とし、昨年使用した薬剤も使用しないで下さい。

ミカンサビダニの被害が認められた場合は、早急に薬剤を散布して下さい。

「ナシ」

●黒星病、炭そ病

‘新高’等の晩生品種が混植されている園では、アミスター10 フロアブル 1,000 倍（収穫前日まで、黒星病・炭そ病で登録）やストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫前日まで、3000 倍は黒星病で登録）を散布して下さい。

収穫が終了した園では、デランフロアブル 1,000 倍（収穫 60 日前まで、黒星病・炭そ病で登録）、キノンドーフロアブル 1,000 倍（収穫 3 日前まで、黒星病で登録）等を散布して下さい。その際、周囲に収穫が終わっていない園があれば薬液が飛散しないよう十分に注意して下さい。

●ハダニ類

本年もハダニ類の発生が多く、防除に苦慮されている園が見られます。ハダニ類が発生している園では、コロマイト水和剤 2,000 倍、カネマイトフロアブル 1,000 倍等を散布して下さい。

さい。ハダニ類は多発すると防除が難しくなるため、収穫後もこまめに園内での発生状況を観察し、発生が認められたら早急に薬剤を散布して下さい。

●フタモンマダラメイガ

9月中旬頃までにフェニックスフロアブル4,000倍を主幹、主枝にむらなくかかるように散布して下さい。スピードスプレーヤーの散布では主幹・主枝への薬液の付着が十分ではないことが多いため、できるだけ手散布にして下さい。

また、虫糞が粗皮の割れ目から出ている場合は、粗皮を削って生息している幼虫を捕殺して下さい。ただし、粗皮を過度に削ると、削った部分に形成される柔らかいカルスに本虫が再び寄生しやすくなるため、削りすぎないように注意して下さい。

●ナシヒメシンクイ

近年、秋の発生量が増加しており、昨年は9月以降に果実被害が発生した園地も見られたことから、引き続き収穫終了まで7～10日間隔でスカウトフロアブル2,000倍やダントツ水溶剤2,000倍等の殺虫剤を散布してください。交信かく乱剤を設置している園についても交信かく乱剤の効果が切れる時期なので同様に殺虫剤を散布してください。

「ブドウ」

●べと病

本病による早期落葉を防ぎ、翌年の伝染源を減らすため、収穫後も薬剤を散布して下さい。薬剤はボルドー液（I C ボルドー48Q 30倍、I C ボルドー66D 50倍）に展着剤のアビオンE 1,000倍を加用して下さい。

「モモ」

●せん孔細菌病（モモ）、黒斑病（スモモ）

秋季の感染を防ぐため、9月上旬～10月上旬頃に薬剤を散布して下さい。モモではI C ボルドー66D50倍またはI C ボルドー412 30倍、スモモではI C ボルドー412 30倍を散布して下さい。台風等の強風雨で感染が助長されるため、台風襲来が予想される場合は、通過前に薬剤を散布して下さい。

「カキ」

●炭そ病

炭そ病が発生した夏枝等は果実への伝染源となるため、必ず除去し園外で適切に処分して下さい。

本病は降雨で伝染するため、樹の上部にも薬液がむらなくかかるように散布して下さい。収穫前に降雨が多い年や台風通過後は多発するので状況に応じて薬剤の散布回数を増やす必要があります。散布間隔の目安は前回散布 20 日後もしくは累積降雨量が 150～200mm に達した時点ですが、台風襲来が予想される場合は、必ず通過前に薬剤を散布して下さい。薬剤は、ストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫 14 日前まで）やオンリーワンフロアブル 2,000 倍（収穫前日まで）、ナリアWDG 2,000 倍（収穫前日まで）等を散布して下さい。

「キウイフルーツ」

●クワシロカイガラムシ

9 月中下旬頃（3 回目の幼虫発生期）にモスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍（収穫 7 日前まで）等を散布して下さい。なお、一部の品種では使用できる農薬に制限があるため、栽培暦等を確認して薬剤を選択して下さい。